

漣、漣、

Echoes

熊本市現代美術館
Contemporary Art Museum, Kumamoto

ギャラリーⅢ+井手宣通記念ギャラリー
GⅢ-Vol.158 中村壮志展 漣、漣、Echoes

860-0845 熊本市中央区上通町 2-3
TEL 096-278-7500 www.camk.jp gamadas@camk.or.jp

「通町筋」電停・バス停で下車、徒歩1分

JR熊本駅から市電またはバス「健甕町」行(約15分)

JR新水前寺駅から市電またはバス「熊本駅」上熊本駅行(約10分)

阿蘇くまもと空港から空港バス「熊本駅前」行(約40分)

美術館専用の駐車場はございません。
ひかれます無日空駐車場(有料)や周辺のコインパーキングをご利用ください。

Soshi
Nakamura

漣、漣、

アーティストトーク + 交流会

日時:2025年1月25日(土)17:00~

会場:熊本市現代美術館

アーティストトーク

参加無料

※直接会場にお集まりください。
ホームページの様、交流会を行います。

2025
1月
25日(土)

4月
06日(日)

10:00 ————— 20:00 入場無料

休館日 火曜日、2月12日(水) ※2月11日(火・祝)は開館
主催 熊本市現代美術館
(熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団)

漣、漣、Echoes (さんさん、さんさん/エコーズ)は、熊本出身の美術家、映像作家 中村壮志の地元での初個展です。映画や文学、音楽、個人的な出来事などを起点に制作する中村は、今回、民俗文化である「雨乞い太鼓」に着想を得て、サウンドとオブジェクトで構成された新作のインスタレーションを発表します。光や音が明滅し、楽器、鉱物、家族の所有物など部屋に置かれたオブジェクトが微細に振動し続ける、まるで異界の、または馴染み深い劇場のような空間が立ち現れます。中村は、「雨乞い太鼓」を呪術的行為と捉え、自然のその先に人が感知する「見えないもの」への「祈り」と「抵抗」という異なる感情のせめぎ合いから、人が自然や未知なるものと切り結ぶ関係のあり方を描き出します。近代的思考に潜在する二分法の境界に新たな地平を切り拓いていくその姿勢は、今の時代を生き抜く抵抗の狼煙(のろし)となるでしょう。

中村壮志 | 1991年熊本生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。映像インスタレーションを軸に様々なメディアを用い、個人や集合的な文化的記憶の継承と喪失、人工と物語、儂さ、風景とテクノロジーなどを主題として、潜在する関係性を探索する。また、抵抗の声として振動や音楽を提示し、緊張や不安、混乱や偶然の中に揺れ動く存在を見出すとする。MANTLE(伊坂隆+中村壮志)としても活動。主な展覧会に「もれ出つる一日」(The 5th Floor, 東京、2023)、「Standing Ovation | 四肢の向かう先」(ニューアカオ、静岡、2021)、「松果体の軀身」(台美術館、武漢、2024)、MANTLEとして「DXP 一次のインターフェースへ」(金沢21世紀美術館、石川、2023)など。